

会員の活動　日頃の取り組みを紹介します

6.1 ただ一人の学芸員の展示室開設 までの道のり

瀬棚町、北檜山町、大成町の3つの町が合併して生まれたせたな町は、平成29年（2017）に初めて学芸員を採用しました。せたな町は北海道指定の有形文化財「瀬棚南川の出土遺物」をはじめ、貴重な考古資料を数多く所蔵しています。初めての学芸員として赴任した工藤会員は、3つの旧町に分散した博物館資料を集成し、平成30年（2018）に北檜山区のせたな生涯学習センターに展示室をオープンさせました。

6.1.1 せたな町教育委員会奉職まで

私は平成26年（2014）に札幌大学大学院を卒業したのち、斜里町立知床博物館で発掘調査員として川上1遺跡、チャシコツ岬上遺跡の発掘調査及び報告書作成に従事し、翌年、白老町の仙台藩白老元陣屋資料館で臨時職員として2年間勤めたのち、縁があり平成29年（2017）にせたな町で正職員の学芸員として勤めることになりました。

6.1.2 せたな町の文化財

せたな町は北海道の南西部、日本海に面した檜山管内北部に位置しており、平成17年（2005）年9月1日に瀬棚郡瀬棚町・瀬棚郡北檜山町・久遠郡大成町の3つの町が合併し「せたな町」

として新たにスタートした町です。



図6.1 せたな町の位置

旧瀬棚郡北檜山町に行政の中心がおかれ、瀬棚町から町名を、久遠郡大成町から郡名を引き継ぎ、合併によって町の総面積は638,68km²と広大になっています。人口は約7,400人（令和3年8月現在）となっています。主な文化財としては、国指定重要無形民俗文化財「松前神楽」、道指定有形文化財「南川遺跡出土の遺物」、町指定有形文化財「荻野吟子の遺品及び資料」、「青い目の人形」、「明珍信家製作の筋兜」、「阿波人形淨瑠璃」、町指定無形文化財「久遠神楽」があります。

6.1.3 資料整備と新施設開館

この町に来て、学芸員として一番初めに行つたことは収蔵資料台帳、埋蔵文化財包蔵地台帳、収蔵庫の確認でしたが、当町は合併前後ともに学芸員が不在だったので、収蔵資料台帳は途中までしか作られていないもの、まったく作られていないもの、埋蔵文化財包蔵地台帳は地番の記載がないものや遺跡範囲が明示されていないものがあるなど整理・作成途中で、収蔵庫も保存処理をせずにただ保管しただけの状況でした。

このような当町で学芸員の採用を決めた理由は、平成 25 年（2013）に廃校となった北海道瀬棚商業高等学校の校舎を改修して、郷土資料館、図書室、学童保育所を合わせた複合施設「せたな町立生涯学習センター」を平成 30 年（2018）10 月 1 日に開館する計画があったからです。



図 6.2 改修工事が終わった生涯学習センター

新施設開館にあたり、展示に必要な物品リストと予算確保、収蔵資料の梱包・運搬、展示コンセプトの立案、レイアウトの作成、展示解説文の作成、展示作業、ライティングなどの開館準備と平行し、せたな町各区の歴史調査、文化財に関する普及・啓発活動として埋蔵文化財や郷土史に関する講話や体験事業、各郷土資料館における企画・特別展示の実施、埋蔵文化財保護業務などの通常の学芸業務に加え、社会教育業務や教育委員会業務もやらなければならず、小

さな町の学芸員は 1 人で 1 から 10 までやらなければならないということを、身をもって実感しながらも平成 30 年（2018）10 月 1 日に開館することができました。



図 6.3 展示資料搬入状況

開館して 3 年が経ちましたが、改善点ばかりが日々目につきます。皆さんのが当町のお近くを通るがありましたら、ぜひ足を運んで、お気づきの点などご教示いただければと思います。



図 6.4 生涯学習センター展示状況

工藤 大（せたな町教育委員会）